

「まん丸の笑顔」

広島県萬福寺 高橋道英老師

各地から花の便りに、春の訪れを感じます。三月はお彼岸です。彼岸とは、此岸(迷いの世界)から彼岸(さとの世界)に渡ることです。ご先祖様に掌を合わせ、そして自分自身をみつめなおし、共に彼岸に渡りましょう。そのための修行の一つが布施行です。布施とは、物でも心でも惜しみなく分け与えることです。

Kさん(長野県在住)は、人形劇を通して生命(いのち)の大切さを伝えて歩く、ステキな女性です。そのKさんのことを、共にご本山で修行した福島県に住む松田君に紹介しました。すると、松田君も気に入ってくれて「うちのお寺でもKさんに人形劇をしてもらうことにしたよ」と連絡がありました。それなら、私から何かさしいれをしようと考えていました。そんな時、一つの新聞記事が目に入ります。

福島でお好み焼き店を開く、I君。東日本大震災が起き原発の事故を知ったI君は、故郷の広島に帰ろうと準備をしていました。しかし常連さんの温かい一言に、やはりここ福島で生きたい、と決意をするのです。そして避難所を回りお好み焼きを配っている、という記事でした。私はすぐに差し入れをI君に頼もうと思い、彼も快く引き受けてくれました。

後日、福島県の松田君から手紙がきました。「I君が、原爆で全てを失った広島はお好み焼きと共に復興してきた事、福島の復興に自分のお好み焼きが少しでも力になれば、という思いを語ってくれました。そして広島のお寺さん(=私)から注文を受けましたが、自分にも同じだけ差し入れをさせてください、とI君は申し出てくれました。I君は本当に熱い人ですね。」

この手紙を読んで、I君の行いこそ布施行なのだと教えて頂きました。

さあ今日は松田君のお寺で、Kさんの楽しい人形劇。そのあとは、I君と私の差し入れたアツアツのまん丸お好み焼き。お陰でお寺に集まった皆さんの「おいしいねえ」の「まん丸の笑顔」がならぶことでしょう。(終)